

# 主よ、お話し下さい

シリーズ～預言者の声～

2022/1/23

# 先週のおさらいクイズ

問) イスラエルの民が、水がないと文句を言ったとき、モーセとアロンは即座にどうしましたか？

答) 会見の天幕で主の前にひれ伏した

問) 主は彼らにどうせよと言われましたか？

答) 杖を取り、岩に命令せよ

問) 主はなぜモーセに厳しい裁きを下されたのだと思いますか？

答) 主が聖であることを示さなかったから＞  
モーセが神のように振る舞ったから

# モーセ後の預言者

## • 士師の時代

- 「イスラエルの人々がミディアン人のことで主に助けを求めて叫ぶと、主は一人の預言者をイスラエルの人々に遣わされた。」士師記6:7-8

- ギデオンが召される直前の出来事

## • 士師たち

- 自らの罪によって招いた危機に際し、主に助けを求めると「士師」と呼ばれるリーダーを起こされた
- 士師は預言者ではないが、主の代務者であり、代弁者でもあった

# サムエルの生い立ち(1章)

- 不妊の女であった母ハンナ
  - もう一人の妻であったペニナにいじめられていた
- 主に切に祈ったハンナ
  - 1年に1度家族で幕屋に祈りに行っていた
  - ハンナは声を殺して祈った
- 約束の祈り
  - 誓いを立てて言った。「万軍の主よ、はしための苦しみを御覧ください。はしために御心を留め、忘れることなく、男の子をお授けくださいますなら、その子の一生を主におささげし、その子の頭には決してかみそりを当てません。」1:11 > ナジル人

# 祭司エリのもとへ

- ハンナは約束通りサムエルを主にささげた
  - 「人々は…その子をエリのもとに連れて行った。…『わたしは、この子を主にゆだねます。この子は生涯、主にゆだねられた者です。』」1:25,28
- 祭司エリの息子たちは堕落しきっていた
  - いけにえの肉を「三つまたの肉刺し」で奪った
  - 幕屋で働く女性たちとたびたび関係を持っていた
- 父エリも警告していたが…
  - 「『人が人に罪を犯しても、神が間に立ってくださる。だが、人が主に罪を犯したら、誰が執り成してくれよう。』しかし、彼らは父の声に耳を貸そうとしなかった。主は彼らの命を絶とうとしておられた。」2:25

# サムエル記上3章1～21節

少年サムエルはエリのもとで主に仕えていた。そのころ、主の言葉が臨むことは少なく、幻が示されることもまれであった。ある日、エリは自分の部屋で床に就いていた。彼は目がかすんできて、見えなくなっていた。まだ神のともし火は消えておらず、サムエルは神の箱が安置された主の神殿に寝ていた。主はサムエルを呼ばれた。サムエルは、「ここにいます」と答えて、エリのもとに走って行き、「お呼びになったので参りました」と言った。しかし、エリが、「わたしは呼んでいない。戻っておやすみ」と言ったので、サムエルは戻って寝た。

主は再びサムエルを呼ばれた。サムエルは起きてエリのもとに行き、「お呼びになったので参りました」と言った。エリは、「わたしは呼んでいない。わが子よ、戻っておやすみ」と言った。サムエルはまだ主を知らなかったし、主の言葉はまだ彼に示されていなかった。主は三度サムエルを呼ばれた。サムエルは起きてエリのもとに行き、「お呼びになったので参りました」と言った。エリは、少年を呼ばれたのは主であると悟り、サムエルに言った。「戻って寝なさい。もしまた呼びかけられたら、『主よ、お話してください。僕は聞いております』と言いなさい。」サムエルは戻って元の場所に寝た。主は来てそこに立たれ、これまでと同じように、サムエルを呼ばれた。「サムエルよ。」サムエルは答えた。「**どうぞお話してください。僕は聞いております。**」主はサムエルに言われた。

「見よ、わたしは、イスラエルに一つのことを行う。それを聞く者は皆、両耳が鳴るだろう。その日わたしは、エリの家にご報告したことをすべて、初めから終わりまでエリに対して行う。わたしはエリにご報告知らせた。息子たちが神を汚す行為をしていると知っていながら、とがめなかった罪のために、エリの家をとこしえに裁く、と。わたしはエリの家について誓った。エリの家のご罪は、いけにえによっても献げ物によってもとこしえに贖われることはない。」サムエルは朝まで眠って、それから主の家の扉を開いた。サムエルはエリにこのお報告を伝えるのを恐れた。エリはサムエルを呼んで言った。「わが子、サムエルよ。」サムエルは答えた。「ここにいます。」

エリは言った。「お前に何が語られたのか。わたしに隠してはいけない。お前に語られた言葉を一つでも隠すなら、神が幾重にもお前を罰してくださるように。」サムエルは一部始終を話し、隠し立てをしなかった。エリは言った。「それを話されたのは主だ。主が御目にかなうとおりに行われるように。」サムエルは成長していった。主は彼と共におられ、その言葉は一つたりとも地に落ちることはなかった。ダンからベエル・シェバに至るまでのイスラエルのすべての人々は、サムエルが主の預言者として信頼するに足る人であることを認めた。主は引き続きシロで御自身を現された。主は御言葉をもって、シロでサムエルに御自身を示された。

# 主がサムエルを呼ばれる

- サムエルは神殿で寝ていた
  - 「サムエルは神の箱が安置された主の神殿に寝ていた。」
- 主がサムエルを呼ばれたがエリだと思った
  - 「主はサムエルを呼ばれた。サムエルは、『ここにいます』と答えて、エリのもとに走って行き、『お呼びになったので参りました』と言った。」
- 3度目にエリは主が語られていると分かった
  - 「戻って寝なさい。もしまた呼びかけられたら、『主よ、お話してください。僕は聞いております』と言いなさい。」

# 主よ、お話し下さい

- 4度目に主に答えるサムエル
  - 「主は来てそこに立たれ、これまでと同じように、サムエルを呼ばれた。『サムエルよ。』サムエルは答えた。『**どうぞお話しください。僕は聞いております。**』」
- 主がサムエルに語られたこと
  - エリの息子たちのしたことと、それをとがめなかった父に対する裁き
- 主のお告げをエリに語ったサムエル
  - 「サムエルは一部始終を話し、隠し立てをしなかった。」<言いづらかっただろうが

# 預言者として認められたサムエル

- サムエルの言葉はそのとおり成就した
  - 「サムエルは成長していった。主は彼と共におられ、その言葉は一つたりとも地に落ちることはなかった。」
- 人々はサムエルを預言者と認めた
  - 「ダンからベエル・シェバに至るまでのイスラエルのすべての人々は、サムエルが主の預言者として信頼するに足る人であることを認めた。」
- 主は幕屋でサムエルに語り続けられた
  - 「主は御言葉をもって、シロでサムエルに御自身を示された。」>サムエルは聞き続けた

# 主よ、お話し下さい

- 主は様々な方法で語りかけられる
  - 御言葉を通して(一部・全体)
  - 人の言葉を通して(説教・友人・書物など)
  - 私たちの心に直接(検証が必要！)
- 私たちに聞く準備が出来ているだろうか？
  - こちらの言うことは聞いて欲しいが、主が語ろうとすることには関心が無い
- 黙想の時間を取ろう！
  - 御言葉を読み、祈った後で、静まって主の語りかけを待つ。「どうぞお話しください。僕は聞いております。」と思いつつ